

科目名	人間文化概論			ナンバリング	JPN231	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	久呉高之	担当教員					

授業の概要	人間の産み出してきたさまざまな文化形態を「思想」という観点から捉え、人間文化を根本的に理解することに目標をおく。宗教や哲学などに見てとられる「ものの考え方」が人間の文化の基底に存することを、古代から現代にわたり、具体的諸事例に即して見定める。西洋のキリスト教的な自然観・人間観とそれ以外の自然観・人間観との対比を基軸にして、人間文化の諸局面における被制約性(条件づけられていること)を、主として哲学的な視点から考察し、表現された文化の「意味」を読み解く。						
到達目標	1. 旧約宗教、キリスト教の概観にもとづき、西洋の自然観の根底に存する考え方のポイントを説明することができる。 2. ソクラテス以前の「自然学者」とそれについてのニーチェの考えにもとづき、古代ギリシャの自然観をキリスト教的自然観との対比で説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	予備知識はあまり必要ないが、哲学的問題に慣れるために、参考書で哲学的諸概念に触れておくことが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① 旧約の思想のポイントを説明できる。 ② 新約の思想のポイントを説明できる。 ③ 西洋の自然観の根本的考え方について説明できる。 ④ 古代ギリシャの自然観とキリスト教的自然観とを比較して説明できる。 ⑤ キリスト教との対比でニーチェの思想の概要を説明できる。 ⑥ 西洋のドラゴンと日本の龍との対比をとおして東西の自然観のポイントを説明できる。	① 新約の思想を旧約の思想との対比において説明できる。 ② ソクラテス以前の「自然学者」の思想のうちにキリスト教的自然観との対比を見てとることができる。 ③ キリスト教的人間観をその階層的図式に即して説明できる。 ④ 中世キリスト教思想の「プラトンの二元論」に関してニーチェの思想を説明できる。 ⑤ 「西洋のドラゴンと日本の龍」をふまえて読み解かれた、日本のゴジラ映画におけるGodzilla の意味を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○		○	70%

課題、評価のフィードバック	1 配付プリントに記入された質問に対しては、次回の授業で回答し、解説を加える。 2 最終成績評価が50点台の場合には、希望者のみレポートを課す。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	本授業の内容と意義とについて、その大枠を解説する。	
	第2回	旧約の思想 ～審判者としての神～	西洋の自然観の根底に存する旧約宗教の概観にもとづき、旧約の思想のポイントを指摘し、かつ解説する。	
	第3回	新約の思想 ～無限な愛としての神～	旧約宗教を基礎とするキリスト教の概観にもとづき、新約の思想のポイントを指摘し、かつ解説する。	
	第4回	中世キリスト教哲学 ～「存在そのもの」としての神～	キリスト教的世界観の礎をなす中世キリスト教哲学の大枠について、そのポイントを指摘し、かつ解説する。	
	第5回	中世キリスト教思想の遺産 ～プラトンの二元論～	近世思想(近代合理主義)を準備したキリスト教的世界観について、そのポイントを指摘し、かつ解説する。	
	第6回	西洋のドラゴンと日本の龍	キリスト教的自然観における「動物」の位置づけを踏まえ、ドラゴンを実例として、中国や日本の龍との対比のポイントを指摘し、かつ解説する。	
	第7回	古代ギリシャの自然観 ～根源的自然～	ソクラテス以前の「自然学者」とそれについてのニーチェの考えにもとづき、古代ギリシャの自然観をキリスト教的自然観との対比で解説する。	
	第8回	キリスト教的人間観 ～「神の似像」としての人間～	キリスト教的文化(欧米の文化)における人間観を、神-人間-自然という階層的図式に即して解説する。	
	第9回	古代ギリシャの人間観 ～mortalとしての人間～	人間を「死すべきもの」として捉える古代ギリシャの人間観について、ギリシャ神話に即して解説する。	
	第10回	平成ゴジラの思想 1 ～ゴジラ×メカゴジラ～	第6回「西洋のドラゴンと日本の龍」をふまえて読み解かれた、日本のゴジラ映画における Godzilla の意味について、そのポイントを解説する。	
	第11回	平成ゴジラの思想 2 ～ゴジラ2000ミレニアム～	第7回「古代ギリシャの自然観～根源的自然～」をふまえて読み解かれた、日本のゴジラ映画における Godzilla の意味について、そのポイントを解説する。	
	第12回	平成ゴジラの思想 3 ～核と日本～	唯一の被爆国である日本において生み出されたゴジラ映画の視聴を踏まえ、Godzilla の意味について、「核と日本」という視点から解説する。	
	第13回	手塚治虫「火の鳥」1 ～鳳凰編～	第7回「古代ギリシャの自然観～根源的自然～」をふまえて読み解かれた「火の鳥」の根本的モチーフについて、そのポイントを解説する。	
	第14回	手塚治虫「火の鳥」2 ～宇宙編～	第9回「古代ギリシャの人間観～mortalとしての人間～」をふまえて読み解かれた「火の鳥」の根本的モチーフについて、そのポイントを解説する。	
	第15回	手塚治虫「火の鳥」3 ～未来編～	「火の鳥」の根本的モチーフを、ニーチェ哲学における「ディオニュソスのなもの」と関連づけて解説する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		配付プリントを読み進め、また多くの場合ビデオ視聴をととして考えていく。聞き取ったことや疑問点をプリントに書き込む作業を中心とする。		
授業外学習の指示		配付資料と参考書を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する参考書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	毎回配付するプリントをテキストとする。
参考書	『岩波 哲学・思想事典』(本学図書館蔵)
参考URLなど	なし
その他	なし